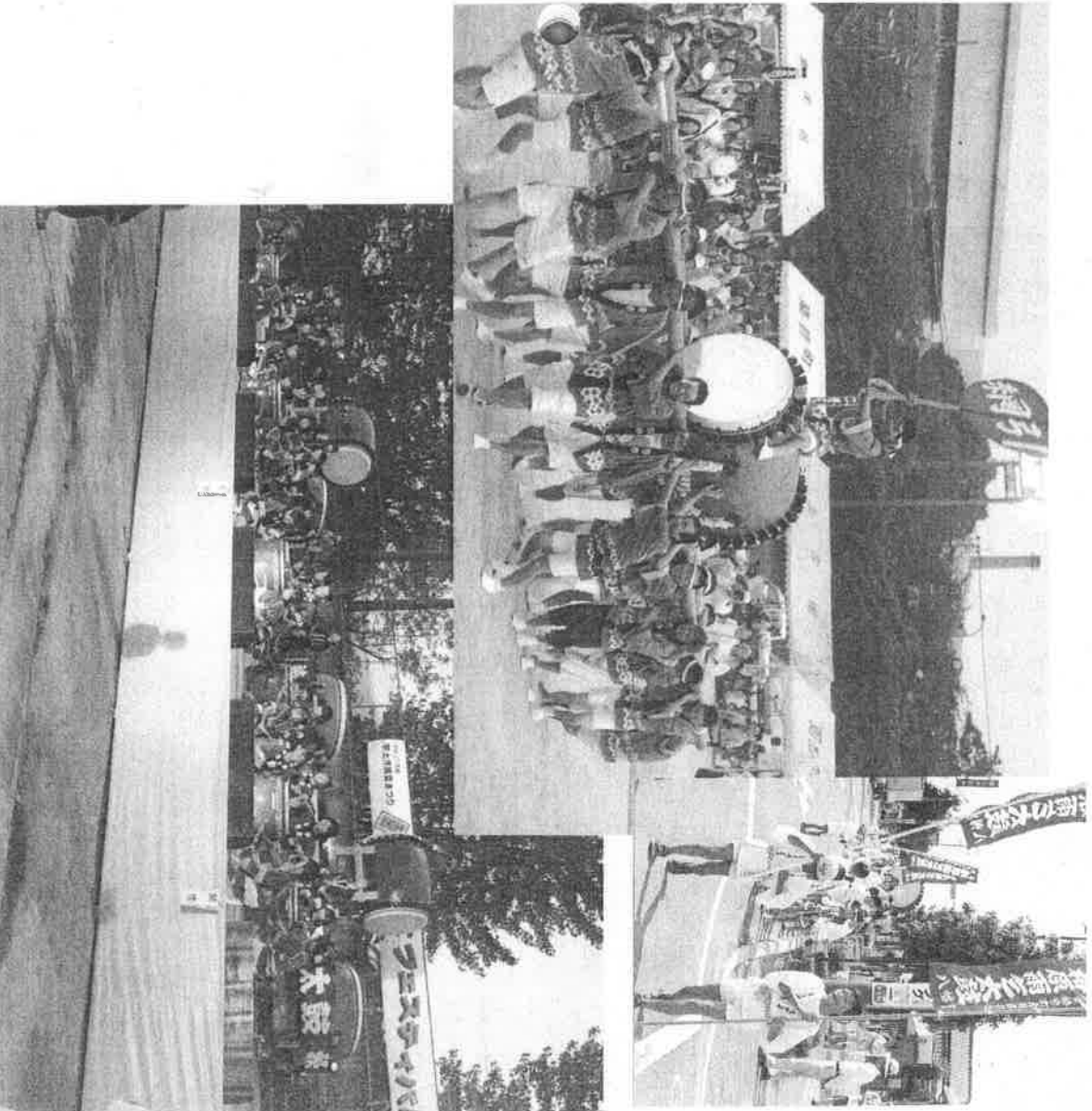


宇士大太鼓フエスナイバル実行委員会



概要

設立年月日 昭和61年4月

代表者 田尻 正三 (たじり まさみ)

構成 3団体 個人(107名)

住所 宇士市新小路町 96

主な活動地 宇士市

地域文化活動部門

宇土市では、江戸時代から明治時代にかけて、鉦と

大太鼓のリズムに合わせて、笛の音とともに村人が踊る「雨乞い祭り」や「虫追い」行事が盛んに行われており、櫂の大木を割り抜いた廻りが最大で五メートルを超えるような太鼓などが各地区で保存されてきました。

宇土大太鼓フェスティバル実行委員会は、宇土市に残る雨乞い大太鼓（熊本県指定重要民俗文化財）による地域おこしと、太鼓と鉦、笛、踊り等による伝統的な雨乞い芸能の保存継承を目的として、昭和六十一年に発足した団体です。戦後の急激な社会変化の中で忘れ去られていたこのような行事の復興に取組み、以来、毎年八月に「宇土大太鼓フェスティバル」を開催されています。

宇土市内各地区に伝わる雨乞い芸能披露のほか、創作太鼓やちびっこ太鼓の披露など、宇土市に伝わる「宇土大太鼓」を通じて、伝統文化の保存と継承に大きく寄与しています。

これまでの活動歴

昭和六十一年	第一回「宇土大太鼓フェスティバル」開催。再生した大太鼓四基を披露。
平成三年	修復された二十六基の大太鼓をフェスティバルで披露。
平成十四年	宇土雨乞い大太鼓及び関連資料が県重要民俗文化財に指定される。
平成二十二年	第二十五回記念のフェスティバルを開催。